

都市の将来イメージ



戦略06関連
四季折々の美しい緑と水を
編み込んだ都市の構築

FUTURE IMAGE

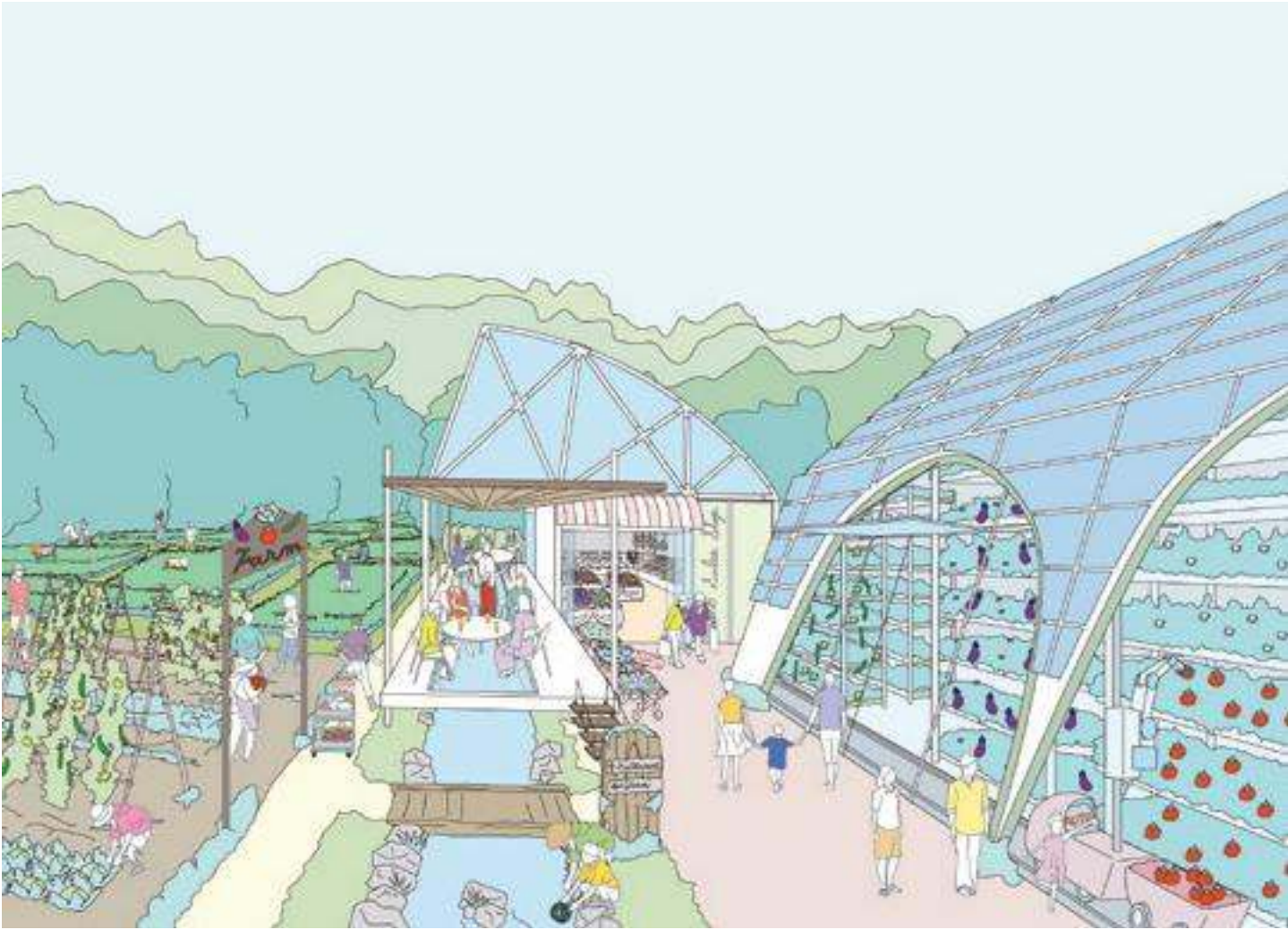
豊富な緑と水や、歴史・文化が蓄積された庭園などの東京の資源を最大限活用し、人々の暮らしにゆとりや潤いを与え、四季折々の美しい風景が感じられるまちづくりを進めます。



(水と緑がネットワーク化された潤いあふれる区部中心部)

大規模公園やスポーツ施設が立地する区部中心部では、それらが水と緑のネットワークでつながり、舟旅や散策を楽しむ多くの人でにぎわっています。

太陽光等の再生可能エネルギーの利用が進むとともに、屋上や壁面が緑化されたゼロ・エネルギー・ビル(ZEB*)が立ち並び、まち全体でエネルギー負荷が低減した環境に優しい都市が実現しています。



(ブランド力の高い野菜や果物を生産する都市農業が展開される地域)

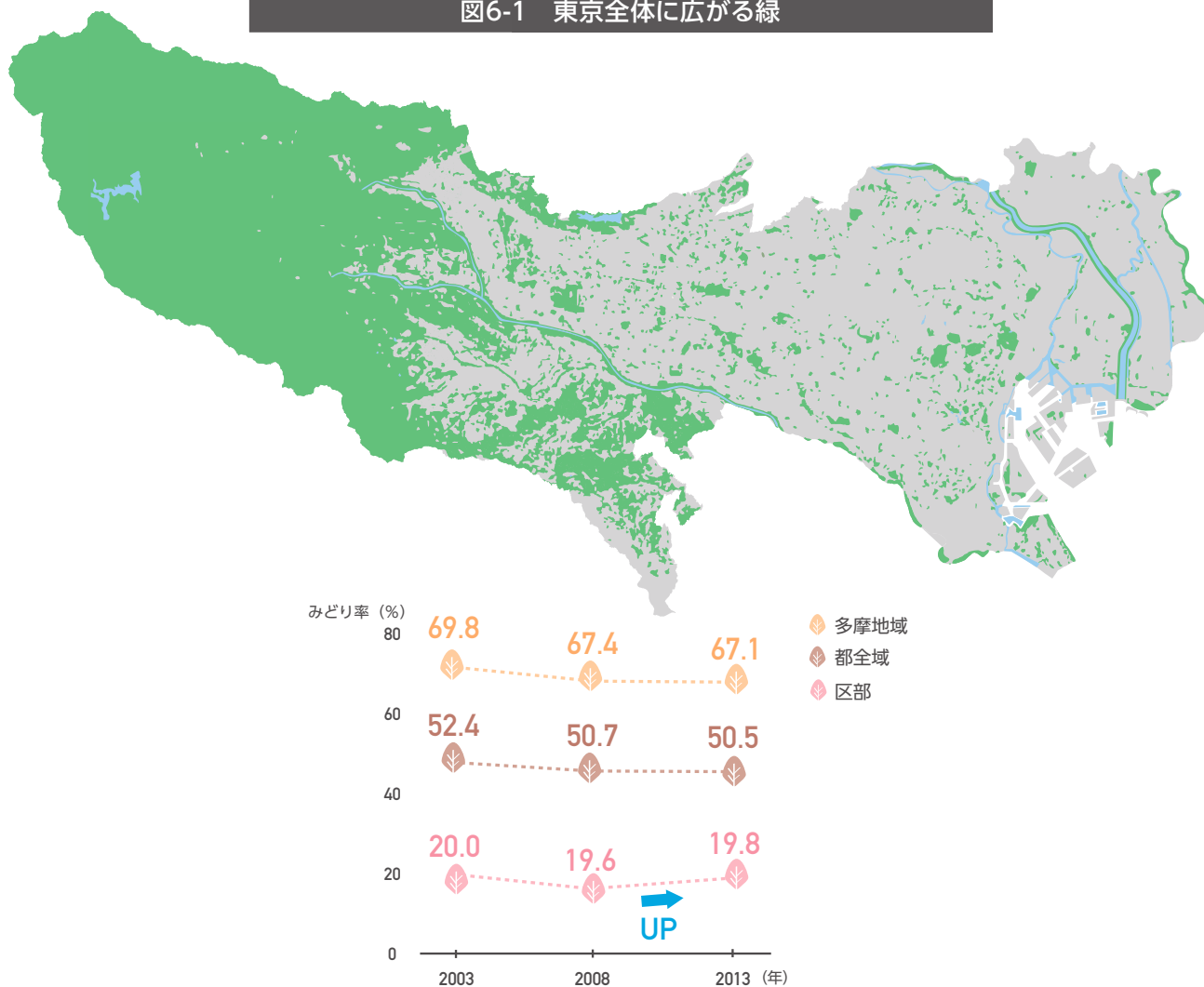
区部周辺部や多摩地域では農地が保全された上で、防災や教育など多面的な機能を発揮するとともに、人工知能(AI)やIoTなどを使ったスマート農業*の取組等により、多くの若者が楽しみながら農業に従事しています。

農地周辺の江戸東京野菜の直売マーケットやレストランでは、採れたての野菜やそれらをふんだんに使った料理が提供され、多くの人が東京の農業を身近に感じています。

現状と将来の見込み等

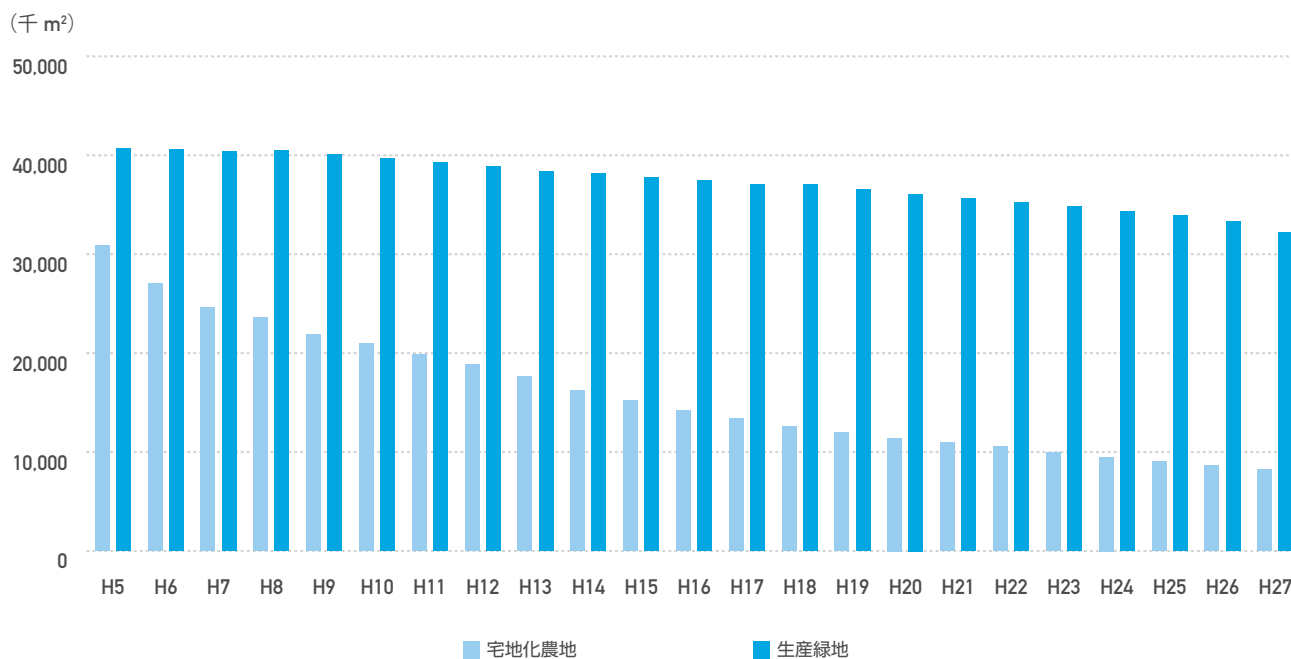
- 東京の緑は、公園・緑地が増えているものの、全体としては減少傾向にあります。これ以上緑を減らさないよう、今ある緑や農地を守るとともに、都市づくりのあらゆる機会を捉えて新しい緑を生み出す必要があります。(図6-1)
- 特に農地は、都市化の影響や相続などにより減少を続けていますが、意欲的な農業者が増加するとともに農業に対する都民の関心は高まっており、都市の貴重な資源として積極的に保全・活用する必要があります。(図6-2)
- 公園や緑地、歴史・文化が蓄積された庭園などの豊富な資源が、都市の中で十分に生かされているとは言えない面があり、これらを活用していくことが求められています。
- 東京には、海や河川、運河など多様な水辺空間があり、水質の改善等とともに、まちづくりにおいて新たな水辺空間を生み出すなど、多くの人が憩える空間の創出が求められています。

図6-1 東京全体に広がる緑



(資料)「平成25年『みどり率』の調査結果について」(平成26年9月)から作成

図6-2 宅地化農地と生産緑地の推移



(資料)「東京の土地(土地関係資料集)」から東京都作成

都市の将来イメージの解説

キープラン



解説

- ① 周辺のまちづくりと連携して地域の価値を高める都市公園
- ② 充実した舟運ネットワーク*
- ③ パブリックビューイング等のイベントに多目的に活用されるスポーツ施設
- ④ 多摩産材を外装に活用したデザイン性の高い建築物
- ⑤ 民間の観光船も発着し、にぎわいを生む防災船着場*
- ⑥ きれいな川で楽しむ船上ウエディング
- ⑦ 太陽光等を使い環境性能の高いゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)
- ⑧ 都市開発に併せ無電柱化された道路空間



- ① 消費者と生産者の交流の拠点となる農産物の直売所
- ② 太陽光発電を導入しエネルギーを自給自足する野菜工場
- ③ 先端技術も活用し品質の高い農産物を効率的に育てるスマート農業
- ④ 里山や清流の自然が保全された農空間
- ⑤ 買い取った生産緑地を活用した市民農園
- ⑥ 田植えや稲刈りを体験できる貴重な田んぼ
- ⑦ 農園に併設された農家レストラン